

## 大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	r-4
事 業 名	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b style="font-size: 2em;">A</b>	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p>本プログラムは、東京大学の自然科学諸分野と社会基盤学分野が連携し、将来の日本とロシアの連携の要となる若手人材を育成すべく、ロシアのトップ・クラスの2大学との大学間交流協定に基づき、学生の派遣・受入と教員の共同研究を戦略的に進めることを目指して実施されたものである。</p> <p>STEPS（Students and Researchers Exchange Program in Sciences）オフィスの設置や専任教員の配置により組織的・継続的な連絡体制が構築され、ロシアとの学生交流や教員の共同研究を促進するための取組が行われた。両国の学生に対しては、履修、学習、生活の全般に渡ってサポートや情報提供が行われ、授業の質も保証された。また、ロシア側の要望や参加学生の意見を迅速に交流プログラムの構築や改善に役立てるなど、柔軟な対応が行われたほか、学生の自主性を尊重するとともにミスマッチを解消すべく、派遣学生が自ら受入先にアプローチするやり方を採用することで、学生自身の関心に沿った研究活動を可能とした。さらに、持続可能な社会の構築を目指してサステナブル環境学に関する共同シンポジウムやワークショップを開催したり、共同研究により論文を発表するなど、質の高いモデルが展開されており、今後も両国の国際学術交流に新しい刺激を与えていくことが期待できる。プログラムの実施により得られた成果をウェブサイト上で4か国語で発信するだけでなく、ロシアと取引のある企業等に向けて運営資金の確保に努めるなど、取組の継続に向けた活動も行われた。</p> <p>一方で、派遣・受入学生数は目標値を下回っており、研究重視の特殊性を考慮するとやむを得ない点はあるものの、特に補助期間最終年度に派遣学生数が急激に減少した点は、今後の課題として認識する必要がある。また、学生や教員の派遣・受入を通してロシアの魅力の普及に努めるとともに、学生・学術交流を進展させるためにも、減少の要因の分析と日本人学生のロシア留学に対する一層の動機付けに向けた取組が求められる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴うプログラムを実施することで、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことを期待する。</p>